

凪いだ海、澄んだ空気。
孤島に、ひとり佇む。
大自然はゆっくりと深く呼吸し、
私をやさしく包み込む。

空を仰ぐと、白鳥の群れが旋回し、
悠々と宇宙へと消えていく。

ああ、人生は美しい。

シベリウスが 舞い降りる夜に

読響

Yomiuri
Nippon
Symphony
Orchestra

ウィーン響やバーミンガム市響と共演し、
音楽ファンを唸らせるエストニアの鬼才
オラリー・エルツ 指揮

OLARI ELTS Conductor

トゥール：幻影 (共同委嘱作品/日本初演)
TÜÜR: Phantasma (YNSO co-commission; Japan premiere)

ストラヴィンスキー：ヴァイオリン協奏曲ニ長調
STRAVINSKY: Violin Concerto in D major

武満 徹：星・島 (スター・アイル)

TAKEMITSU: Star-Isle

シベリウス：交響曲第5番 変ホ長調 作品82
SIBELIUS: Symphony No. 5 in E flat major, op. 82

読響日本交響楽団 第587回 定期演奏会
Subscription Concert, No. 587

2019 **4.17** 水曜 19時 **サントリーホール**
Wednesday, 17th April 2019 19:00 / Suntory Hall
S¥7,500 A¥6,500 B¥5,500 C¥4,000

読響チケットセンター 0570-00-4390 (10時-18時・年中無休)
<https://yomikyo.or.jp/>

主催：読売新聞社、日本テレビ放送網、読売テレビ、読売日本交響楽団
協力：アフラック
後援：フィンランド大使館

ラトル指揮ベルリン・フィルと共演するなど
今、欧州で最も熱い注目を浴びる新鋭
ヴィルデ・フラング ヴァイオリン
VILDE FRANG Violin



オラリー・エルツ 指揮
OLARI ELTS Conductor

確かな音楽解釈で注目を浴びるエストニアの鬼才。シベリウス国際指揮者コンクールで優勝した後、ヘルシンキ・フィル、ブルターニュ管の首席客演指揮者やラトヴィア国立響の首席指揮者などを歴任。現在はエストニア国立響の首席客演指揮者、キュミ・シンフォニエッタのアーティスティック・アドヴァイザーの地位にある。ウィーン響、北ドイツ放送響、バーミンガム市響、リヨン国立管、ライプツィヒ・ゲヴァントハウス管、フィンランド放送響などに客演。オペラでも活躍し、エストニア国立歌劇場のプリテン「アルパート・ヘリング」などで絶賛を博した。現代音楽のアンサンブルNYVDを創設し、同時代の音楽にも注力している。読響とは3度目の共演となる。

熱くこみあげる 人生の素晴らしさ

— エルツが振る、今に生きる音楽 —

新シーズンの幕開けの《定期演奏会》は、現代作曲家トゥールの新作「幻影」で始まり、20世紀の3つの作品、ストラヴィンスキー、武満徹、シベリウスを演奏する。

指揮は、エストニアの鬼才オラリー・エルツ。出世などのキャリアには無頓着な性格のためか、指揮者として些か地味な印象を受けるが、常に音楽に純粋な心で打ち込んでいる貴重な芸術家だ。読響には過去2度客演しているが、どんな名曲からも新たな解釈を引き出し、観客をハッとさせてきた。「何か面白いことをやってくれるのでは」と期待を抱かせる魅力がある。響きに対する繊細さと卓越したバランス感覚を持ち、厳しいリハーサルを行いながらも、楽団員の心を自然と惹きつけてしまう。今回は、エルツの得意とする近現代作品が並んでおり、その才能が大いに発揮されるだろう。

1曲目のトゥール「幻影」は、フィンランドのキュミ・シンフォニエッタとエストニア国立響との共同委嘱作品。トゥールは、自らロック・グループを率いて活動した経験があり、作風は、プログレッシブ・ロックに影響を受け、カッコイイ作品を幾つも残している。新作は、ベートーヴェンの「コリオラン」序曲をモチーフとして用いて作曲したという。どのような「幻影」が浮かび上がるだろうか。

次に演奏するのは、ストラヴィンスキーのヴァイオリン協奏曲。古典的な様式の中に、ストラヴィンスキー流の斬新さが随所に現れる20世紀を代表する

傑作だ。バロックから続くヴァイオリン協奏曲の歴史を俯瞰しながら、リズムカールで洗練された響きが散りばめられている。独奏を務めるのは、世界の檜舞台で活躍するノルウェーの新鋭ヴィルデ・フラング。2016年にラトル指揮のベルリン・フィルと共演するなど、大きな注目を浴びている。完璧なテクニック、ピュアで澄んだ音色と鋭い感性で、作品の魅力を存分に引き出すだろう。フラングと読響の管楽器の名手らによる丁々発止が楽しめそうだ。

3曲目は、武満徹「星・島(スター・アイランド)」。まさに夜空の星に囲まれた大海の孤島に立ちすくむような興奮と不安の混じる神秘的な作品。武満は「音楽は、希望の水を掬みあげ、それを光に変える。この作品は希望をあらわしている」と記している。エルツが繊細なタクトで自然の美を浮き彫りにする。

メインはシベリウスの交響曲の中でも最高傑作と呼び声高い交響曲第5番。欧州が戦争に巻き込まれていく不穏な社会の中で、シベリウスは何度も挫折し、自らとの壮絶な苦闘を経て、この曲を完成させた。北欧の大自然を思わせる生命力が鮮やかに描かれ、自然賛歌にあふれた感動的な作品だ。終楽章に当たる部分では、白鳥たちが湖の上をゆっくり旋回して大空へ消えていくような音楽が衝撃的に響く。自然の偉大さとともに、そこに生きる人間の美しさが、熱くこみ上げてくる。

ヴィルデ・フラング ヴァイオリン
VILDE FRANG Violin

美しい音色と豊かな音楽性で世界中の音楽シーンから引手あまたの名手。1986年ノルウェー生まれ。ブラッハー、チュマチェンコに師事。2012年にクレディ・スイス・ヤング・アーティスト賞を受賞し、ルツェルン音楽祭でハイテック指揮ウィーン・フィルと共演。これまでにヤンソンス、エツェンパッハ、テミルカーノフ、ラトル、ゲルギエフ、サロネンらの指揮で、ベルリン・フィル、ロンドン響、バイエルン放送響、パリ管、クリーヴランド管などと共演している。ザルツブルク音楽祭、英プロムス、プラハの春音楽祭などでも活躍。アルゲリッチ、クレーメル、バシムツェットらと共演。CDをワーナー・クラシックからリリースし、数々の賞を受賞。



©Marco Borggreve

読売日本交響楽団 第587回 定期演奏会

2019年 **4月17日** (水) 19時開演

サントリーホール 東京都港区赤坂1-13-1 Tel. 03-3505-1001

S ¥7,500 / A ¥6,500 / B ¥5,500 / C ¥4,000

●東京メトロ南北線「六本木一丁目」駅(3番出口)より徒歩約5分 ●東京メトロ銀座線「溜池山王」駅(13番出口)より徒歩約7分

学生券 学生の方は、開演15分前に残席がある場合、¥2,000で入場できます(要学生証/25歳以下)。ただし席を選ぶことはできません。開演1時間前から受付で整理券を配布します。
■都合により曲目、出演者等が一部変更される場合もございます。あらかじめご了承ください。 ■未就学児のご入場は、固くお断りいたします。

読響チケットセンター 0570-00-4390

*10時-18時・年中無休

読響チケットWEB <http://yomikyo.pia.jp/>

*座席選択可/チケット郵送料無料

プレイガイド

チケットぴあ 0570-02-9999

サントリーホールチケットセンター 0570-55-0017